

# 全学年 保健体育科学習指導案

指導者 T1 塩見 夏貴  
T2 中西 奈菜

1 日時 平成26年 9月19日(金) 第5校時

2 題材 球技「ネット型(バレーボール)」

(1) 題材について

球技はボールなどを使って、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、チームの課題や自己の能力に適した課題の解決に取り組んだり、ゲームを楽しんだりするスポーツである。

バレーボールは、ネットをはさんだ2つのチームがボールを使い攻防を展開し、勝敗を争うところに楽しさがあるスポーツである。技能が向上しラリーが続くようになると、チームで協力して様々な攻防ができるようになり、より一層の楽しさを味わうことができるようになる。また技能のレベルに合わせてルール等を変更することが可能なため、幅広い年齢層で親しまれている種目である。

(2) 本校の生徒は、3年生男子3名、女子2名、2年生男子3名(内、特別支援学級1名)、1年生男子2名、女子1名の計11名であり、授業にまじめに取り組む姿勢が見られる。全員が運動部に入っているため、運動に積極的に取り組むことができる。しかし、幼少のころからあまり団体での球技を行う機会がない。連係プレーや自分のチームや相手チームの人の動きに合わせて工夫したり、ボールを持たないときの役割を果たそうとしたりする経験が少なく、対応できないことが多い。運動能力に関しては、女子は全員が新体力テストで、高得点を出せているが、男子は二極化している。身長も140cm前後から170cm前後までの差があるので、ゲームをする際にはルールや用具の工夫が必要である。

(3) 本題材ではオーバーハンドパスやアンダーハンドパスなどの個人技能を習得、向上させるとともに、ゲームにおける集団技能を身に付けさせたい。そのために、チームの雰囲気大切に、チーム内で技能を教え合ったり作戦を考えたりして、チーム力を伸ばすための関わりの場面を大切にしたい。そして、つなげて返すバレーボールから三段攻撃による攻めるバレーボールへの発展を目指したい。また、学年や性別、運動能力の差をふまえて、全員がバレーボールを楽しめるためのルールの工夫点を話し合える機会をつくり、相手チームを含めたスポーツにおける公平性の必要を感じられるようにし、協調性を育てたい。そして、レシーブやパス・アタック・サーブなどの個人技能や、チームでの役割をそれぞれが認識し、声を出して雰囲気を作って活動する姿や、三段攻撃につながるような集団技能の向上を期待したい。

3 題材の目標

- (1) 楽しみながら積極的に、また安全に留意して授業に取り組むことができている。(関・意・態)
- (2) チームにおける自己の役割を自覚して、ルールを守り、競技することができる。(知識・理解)
- (3) 全体の課題解決に向けたルールや用具の使い方を工夫することができる。(思考・判断)

4 学習指導計画(全10時間)

- (1) オリエンテーション・ボールになれる練習(1時間)
- (2) 各種のパス、サーブ練習(3時間)
- (3) サーブレシーブの練習および簡易ゲーム(2時間) 1/2本時
- (4) スパイク練習及びゲーム(2時間)
- (5) ゲーム及び実技テスト(2時間)

5 本時の学習指導

(1) 目 標 ・全員が楽しめるような工夫や改善点を話し合い、ゲームに生かすことができる。

(2) 準備物 バレーボール ネット ホワイトボード ワークシート

(3) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	教師の支援活動
1 集合、整列、挨拶をする。 2 準備運動を行う。 ・体操 柔軟 筋力トレーニング(腹筋 背筋 腕立て) 3 本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認、忘れ物チェックを行い、見学者には状況に応じた活動内容を指示する。</li> <li>・けが予防のために、しっかりと行うように伝える。</li> <li>・筋力トレーニングは、目標回数を行えるように留意させる。</li> </ul> T2:巡視、目標回数達成のための声かけ
全員が楽しめるようなルールの工夫や改善点を考え、ゲームに生かすことができる。	
4 学年に分かれてパスの練習を行う。(5分) 5 班対抗で、パスの連続記録を競い合うゲームを行う。(5分) ・チームごとに円になる。 6 サーブ練習をする。 ・アンダーハンドサービス ・サイドハンドサービス ・フロッターサービス 7 前時の授業の振り返りをし、ルールの工夫や改善点を考える。 8 6人対6人で簡易ゲームをする。 ・ポジションは自由で試合の間に変更してもよい。 9 ゲームの内容から新たな改善点や工夫点を考え、本時の自己評価をする。 ・自己評価カードに記入をする。 10 整理体操、挨拶を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手くパスができるように助言をする。</li> <li>T2:生徒の中に入り、1年生とNを中心に支援をする。</li> <li>・1年生や希望者は、1バウンド拾える条件をつけることで、続ける意識を持たせる。</li> <li>T2:生徒の中に入り、1年生とNを中心に支援をする。</li> <li>・3種類の中から自分にあったサービスを見つけ、ゲームでも活用できるようにさせる。</li> <li>・サービスが苦手なものには、トスを上げすぎないこととボールから目を離さないように留意させる。</li> <li>T2:T1と反対のコートにいる生徒に助言をする。</li> <li>・新しい工夫点や改善点を考えられるように前時のゲームを振り返り、現在の課題を見つけられるようにする。</li> <li>・ゲーム中に困ったことや危険に感じた場面を覚えておくように留意させる。</li> <li>・教員が気づいた場面で一度止め、声かけをして意識させる。</li> <li>・全員が楽しめるようにルールや改善点を考え、ゲームに生かすことができる。</li> <li>・ゲーム中の場面からでた課題を例に上げ、考えられるようにさせる。</li> <li>・本時の評価を行う。</li> <li>・しっかりとストレッチをし、元気よく挨拶させる。</li> </ul>

(4) 評価

評価規準		意欲・関心・態度	
A	B	Bに至っていない生徒への手立て (N)	
全員が楽しく活動ができるような工夫を考えられている。	自分のチームの課題やルールについて考えられている。	試合中の課題になった場面を思い出させ、その状況から用具やルールの工夫を考えさせる。	

